

## 子どもの造形活動の講座から学ぶこと

岐阜聖徳学園大学 教授 早矢仕 晶子



### 1 子どもの造形活動の講座のいろいろと学生が参加する目的

保育者や教育者をめざすゼミの学生とともに、幼児から小学生を対象とした親子で参加する造形講座を開催して、今年で12年目になります。地域に開かれた大学・地域貢献を目的とした大学全体の取り組みの一環としてスタートした大学主催の公開講座は、年間30講座を超え、その対象は大人から子どもまで様々です。親子講座は、造形表現以外にも音楽表現、スポーツ、食育、情報機器の活用などがあり、申し込みと同時に定員になるという人気です。造形講座の内容としては、紙を絵の具で染めて楽しむ活動からその紙をポンチョのようにして着て楽しむものや、粘土遊び、焼き物体験、ビー玉を転がして楽しむゲーム盤作り、ローラーや刷毛を使って立体物に大胆に色を塗り全身で楽しむ活動、モダン



<紙を絵の具で染める活動>



<テラコッタ粘土を使った活動>

テクニックの技法を組み合わせた壁面の共同制作などをおこなってきました。

学生は、3年生を中心に参加することになっています。親子講座を始めた当初、学生たちが保護者に対する対応について不安を感じるという声を多く聞きました。それは、3年生での実習を経験し卒業後には保育者や教育者として現場で働くということを実感して、社会に出て働くことに対する不安の一つであることと、保護者と関わる経験の少なさからくるのもでもあると感じました。そこで講座の目的を、学生たちが講座に参加する親子に関わり、子どもと保護者の関係や、子どもの思い、親の願いのありように気付くことから、親子を理解することを体験的に学ぶ場としました。さらに、講座の内容や材料・用具の設定、教室のレイアウトなどについても意見を出し合い深めることで、実践力を養成したいと考えました。



<ビー玉迷路を作ろう>



<みんなでダンボールのトンネルに色を塗るよ>

## 2 学生の学び



<学生が活動の説明をする様子>

講座に参加する学生は、保育実習や小学校教育実習での経験を活かして取り組んでいます。3年生は、保育実習、幼稚園教育実習、小学校教育実習の3つの実習を経験しており、子どもの想いを受け止め楽しい造形活動にするための工夫に力を発揮できるようになりつつあります。しかし、学生の造形表現に関する力や理解には差があり、講座を実践してみても、指導が十分ではなかったと反省することもしばしばです。これは、造形表現に関する経験の少なさや表現することについての理解の狭さが原因すると考えられ、それぞれの学生にあった造形に関する指導の充実と造形表現や図画工作科に関する授業において深い学びにつながる改善を繰り返すことが求められているのだと感じています。

## 3 活動を継続する意義

ゼミ生とともに講座を行うことで、普段は気付けていなかった学生の持ち味や弱い部分に気付くことができ、ゼミで指導する際の手がかりの一つに役立てることができています。また、何人かで協力して計画、運営することでその学年の特徴もあらわれ就職支援にも活用しています。講座を継続しておこなっていくことで、回を重ねるごとに道具が充実するだけでなく、学生にとっては内容を考える上で参考にできる情報が増え、自分たちで考える手がかりが見つけやすくなります。実践例に触れることで造形活動のイメージも広がります。教員にとっては、実践した活動のいくつかを時間をおいて振り返ることで、講座の内容の検討だけでなく学生に対する指導の方法を見直すきっかけにもなっています。今年も充実した講座になるよう学生とともに楽しんで取り組めたらと期待しています。

「全美協メルマガ」 発刊 予定

8月11号 北沢 昌代 先生（聖徳大学短期大学部）

9月12号 榎 英子 先生（淑徳大学）